

『看護学生スタートブック』 新入生に読んでほしい 学生生活のガイドライン

著：藤井徹也／定価：本体 1,200 円＋税
 発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



今年も新入生を迎える季節になった。大学における初年次教育の必要性は謳われているものの、看護学を学ぶ学生にとって必要なことをガイドする教本は、あまり目にしていない。看護学を学ぶためには、各科目の単位を積み重ねていくことだけでなく、基礎から応用へ、応用から統合へと、学年進行に伴う内容を自分で整理しながら蓄積していくことが肝心である。そしていつも基礎に戻って反芻するということや、23 単位以上と定められている臨地実習の学び方は非常に重要であり、看護系以外の大学や専門学校での学修とは異なっているのが特徴でもある。そして基礎教育での学修は、卒業後に看護職になり、継続的に学修するときの拠り所となる。つまり、看護学を学ぶということには、知識を獲得することだけでなく、知識を用いて実践できることが求められる。

本書には看護学を学ぶ学生に理解してほしい内容が、ていねいに簡潔に書かれている。目次を開いてみると、「新生活スタート」「授業が始まったら」「資料の集め方・読み方」「レポートはこれで書ける」「定期試験が始まった！」「臨地実習で慌てないために」と、章ごとに 1 年次の学習の進度に沿った内容が展開されていく。そして、終章は「充実した学生生活を送るために」でまとめられており、新入生がこれから始まる学生生活をイメージすることができる構成となっている。

私が注目したのは、1 章「新生活スタート」である。ここでは学校のスケジュールや履修登録のこと、そして単位についての説明がされている。高校での学修との相違を学生が理解することはなかなか難しく、学生たちは卒業の頃にやっと単位の意味を考えられるようになっていく。さらに、看護学生としての健康管理の重要性や、ハラスメントなどに関すること、悪徳商法や SNS 関連のトラブル予防のことなど、最近の学生が遭遇しやすい出来事への対処が書かれている点も見逃せない。そして、2 章の「授業が始まったら」では、ノートづくり、グループワークの心構え、プレゼンテーションへの取り組みなどに関することが学生生活や学修に取り組むうえでのヒントになる。そして最終章「充実した学生生活を送るために」では、目標を立て臨むことや卒業後についてのイメージをもつことと共に、看護研究についてもふれられている。つまり、この本は、学生が自分の学生生活をイメージし、今、自分がやっていることがどこにつながっていくのかを示しており、スタディスキルやアカデミックスキルをも含んだ内容となっている。

教員の推薦で多くの学生に読んでもらい、これからの学生生活を有意義に送るヒントを得てほしいと思う。